



平成21年 8月15日

- 2〜4面 特集 昔の写真
- 5面 みんなで仲良く  
町の文化財
- 6面 スポーツ・情報  
なかまたち今・すぽっと
- 7面 こどもの詩・俳句・短歌
- 8面 視点・ペンペン草



# まつかわ百景 ③4

## 日食

日本の一部地域では46年ぶりの皆既日食となり  
松川町でも雲の合間から部分食が観測できました。  
(7月22日11時26分 NDフィルター使用)

先の6月、県の「サンセットポイント100選」に選定されている生田中峠地区に展望台公園「観陽丘」(かんようきゅう)が開園した。参画から1年半を費やし、地元住民が主体となつて事業推進に尽力し、県の「平成20年度地域発元気づくり支援金」による助力も得、無事竣工に至つた。

総戸数僅か14世帯、過疎高齢化が加速し側面的には既に限界集落となつて久しい当地域が本事業を敢行し、漸く一里塚に達したのも地域住民ならびに関係各所の理解と協力の賜物であると万謝をもつて御礼申し上げる。

小生不肖ながら本事業事務局として末席を汚しつつ、この地域活動と「まちづくり」について愚考すること多々あり、この機に卑見を開陳したい。

4年前、町の「まちづくり会議」参席のため内外の専門家に私淑し薫陶を受けた。曰く、「まちづくり」や『地域活動』には当該地域の生活住民の関与が不可欠であり、当事者となる機会の量と継続性がその質を高める。条理は明瞭なるも実践への適用手段は流動的で確答に乏く、所詮学者の理屈であると当時は冷視した。

## 主張

### 観陽丘と「まちづくり」

本事業を省察すると、人口此少な集落だからこそ個々の当事者意識は強く必然的に関与の度合いも高まった。日々を暮らす各戸に隣接した場所だからこそ誰も代償を求めるところなく物心両面から寄与献身した。住民自らでは困難であるが熟慮を経て実現したいと決議したインフラ整備は、公的助成に負うこととなつたが、お仕着せではないハードは節度分別ある規模に止まり足るを知る満足感を得た。同時にハード設備の維持管理と改良営繕に対する義務責任感も当然のように意識され事業の継続的要素を内包した。

「当事者」「参画機会」「継続性」が全て該当することに改めて驚いた。更に当地区では「地域への貢献意欲」「住民相互の結束連帯」も醸成され、抽象的な「活性化」の具現に確かな感触を得、現実には机上論を凌いだと感嘆したが、当時の資料を読み返すと「当事者」「参画機会」「継続性」は「プロセス」を生み、副次効果をもたらすと明記されている。己の具眼に非ずを恥じ、ただ天を仰ぐばかりである。

中峠組合 観陽丘事務局  
加賀田亮

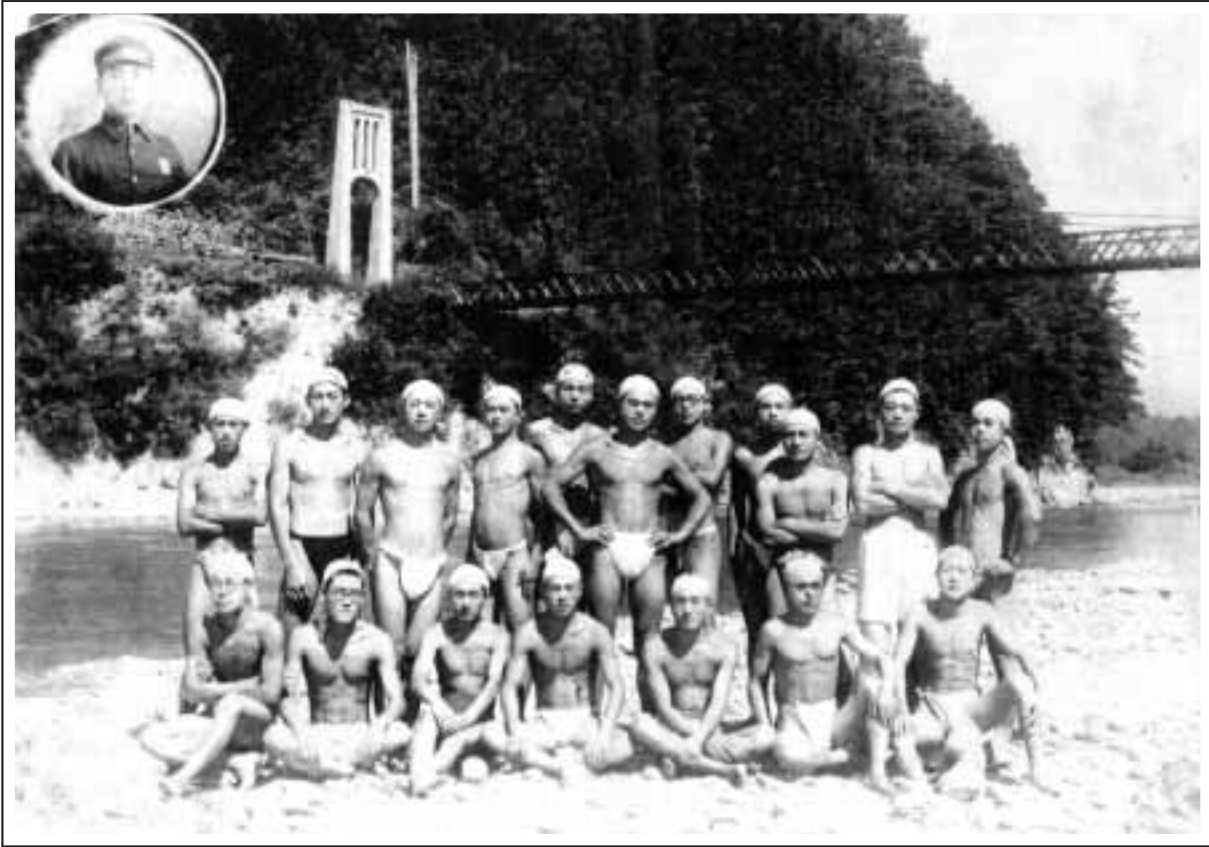
昔の写真を見ながら思  
いつくまま昔の事、現在  
変わった事などを話し  
合ってみた。

# 特集 昔の写真

～昔の生活の様子から、今を考える～

## 壮丁訓練

昭和18年夏  
旧台城橋



(写真：古町公民館より)

「壮丁とは今でいうと成人、徴兵検査を終えて軍隊に入る為の訓練を壮丁訓練といった。写真の人物は旧大島村の人達（大正12年生まれ：現在85〜86才）後ろに見える橋脚は台城側のものでこの真下に深い淵があり、一人づつ橋のたもとからその淵へ飛び込む訓練をした。越中ふんどしで両足を

広げ、両手を水平にして約4〜5m下に飛び込みそのまま天竜川を泳いで市田の明神橋まで行った。帰りは堤防を歩いて台城まで帰り一泊した。戦地へ行く時、船が沈められても泳いで生き延びるための訓練だった」  
(新井・宮下喜久夫さん寄稿)

## 諏訪形橋

昭和15年頃



(写真：記録写真の会より)

「片桐松川に掛けられていた橋だね。木造だが当時にしては土台の石垣がしっかりしているね。」  
「当時は今に比べて川幅は狭

く感じるなあ。戦後の三六災害後の改修工事で現在の川幅になったのだろうか？」  
(30代男性)



# 電車ごっこ

昭和36年頃



(写真：記録写真の会より)

「今の子どもはこういった素朴な遊びはしないだろうなあ。それに今は地域の子どもが世代を越えて一緒に遊ぶのを見かける事は少なくなっただけ」

「この頃はお兄さんお姉さんを先頭に地域の子どもと一緒に遊ぶ事が多かったのかな」  
(30代男性)  
「昔は世代間を越えた絆が強

かったと思う。新年の『どんど焼き』では、高校生の指導を受けて、子ども達だけで完成させたものだ。完成したら翌朝の点火まで子ども達が交替で見張って守った。隣の地区のものを壊しあう風習があったからね。今は大人達主体で作ってしまうね」  
「大人同士も近所付き合いが少なくなつた気がする。組合の集まりで一年に一回顔を見るだけのご近所さんもいる」  
「兼業農家のお嫁さんは農協とかで地元の付き合いがあったりするけど、サラリーマンの夫は地元の付き合いが少な



薪を背負ったおじいさん (写真：記録写真の会より)

い気がする。定年になってからやっと地元の付き合いになるようになって『何処のあんなちゃ？』と隣のおばさんに尋ねられたり(笑)」  
(50代女性)  
「松川町も農地がどんどん住宅地になって、昔みたいに畑に働く大人が居て、子ども達をそれとなく見守る状況は少なくなつてしまつた気がするね。学校帰りの子どもにも気安く『おかえりなさい』と声をかけたけど不審者と間違えられそうで困っちゃうよ」  
(20代男性)

「昔はガスボイラーも電気給湯器もなかった。普段の農作業に加えて薪集めという仕事が必要だったんだね」  
(30代女性)  
「この時代、今ほど果樹園は多くない。おじいさんが背負つてるのは桑の枝だけど、昔は山へ行き、一日がかりで薪を集めたのだからね。女性も背負いビクを背に出かけた聞く。でも今薪を一日中集めていたらとても仕事がまわっていかない気がする。それだけ時の流れがはやくなつたということだろうか」  
(50代女性)

# たきぎ運び (中山) 年代不明

# 代掻き

## 昭和15〜16年頃 諏訪形

「子どもが馬を誘導してるね。大人は馬の後ろから代掻き鍬を押さえてる」

「昭和30年後半頃、小八郎岳に登山すると、切り出した木を積んだ馬の姿を見かけたよ。当時の道は舗装されてなくてね、子どもの通学路にも馬の落とし物が落ちてたりした(笑)。貴重な肥料だから畑に持って

いった」

「子どもの頃、便所の汲み取りをお手伝いしていた。母親と二人天秤棒担いで運んだ。これも大切な有機肥料。野菜経由で回虫が発生するから、学校では生徒全員に虫下しの薬を飲ませていた。飲むと視界が黄色くなる薬だった」

(50代女性)



馬と一緒に代掻き (写真：記録写真の会より)



(写真：記録写真の会より)

# 楽しい学校給食

## 昭和42年 福与

「この頃すでに学校内で給食が調理されていたんだね」

(20代男性)

「脱脂粉乳とバター気の少ないコッペパン。昔の給食の定番。その後牛乳になって木箱

に入って運ばれてきて」

(50代女性)

「自分の時代は初めから牛乳でプラスチック箱だった」

(30代男性)

# まとめ

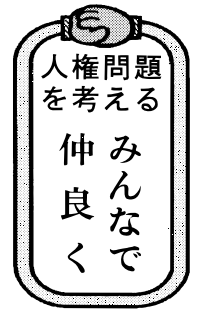
この時代を知らない私たちでも、昔の写真を囲んで想像し語り合う時間は楽しくて、話題が尽きませんでした。お借りした写真は他にもたくさんありましたが、ずっと昔の写真だろうと思っただけで意外と最近の写真であったり：時代のめまぐるしい変化を感じました。また、年の離れた地域の子どものための輪や、子どもと一緒に農作業をする家族の姿などから、「人と人とのつながり」も今よりも結びつきがあったように思えます。

ご家庭でもお茶の間で話し合えばもつともつと色々な感想がでると思います。これらの写真が、ご家族で懐かしい昔の思い出を語り合うきっかけになりましたら幸いです。

今回の特集にあたり、松川町記録写真の会並びに古町公民館関係者の皆さんから写真を提供していただきました。貴重な写真がありがとうございまして。







平和学習から人権を考える

(修学旅行平和学習 係長)

松川中学校 3年 平澤治佳

私たち松川中学校3学年は修学旅行で広島に行きました。

広島では、世界で初めて落ちた原子爆弾について実際に被爆者の方に話を聞いたり平和祈念資料館に学習に行きました。

私たちは、ビデオや資料などで平和について学ぶ中で、1つ気づいたことがあります。それは、この先、平和を守り続けるのは、人権を尊重することに關係するという事です。それらをふまえて学年全員で1人1人、平和の誓いを書きました。その中のいくつかを紹介致します。

3年1組 本塩彩衣

平和のために私のできることは小さいですが、まず友達、周りの人に感謝すること、そして思いやりの気持ちを持つて生活することを誓います。

3年1組 松村 瞳

平和のために自分・家族・友達のを大切に。「生きる」ということに誇りを持つ事を誓います。

3年2組 松下蓮華

生きているという事に感謝する。

3年2組 宮澤里奈

相手を傷つけるような事はない。

3年3組 山田茲英

世界をかえる前に自分かわる。

3年3組 豊田遥那

小さな輪を広げたい。友達と大切ななんだつてみんなが気づくといい。

3年4組 杉山恵菜

家族・友達・周りの人達を大切に、人との関わりを大事にしていきたい。

3年4組 細江真美

いつも一緒にいる人だけではなく、もつと周りにいる人の気持ちを考えた言動や行動を大切にしていきたいです。

3年5組 佐々木柚香

どんな小さな命でも、全ての命を尊重し、大切にしたいです。

3年5組 山内美乃

一人一人の命の尊さ、重さ考える。

松川町の文化財

(361) 埋蔵文化財 (259)

大島城(24)

大島城主、日向大和守①

教育委員会 酒井幸則

文化財シリーズ

天文23年(1554)、甲斐

の武田信玄は下伊那を占領した後、中伊那と下伊那の境目にある大島城に着目して大島氏からこれを撰取し、武田の重臣をここに配置しました。大島城代として派遣されたのは、それまで占領地の府中(現松本)深志城を守っていた日向大和守(是吉)で、中伊那の謀略、下伊那攻略戦における働きが信玄に認められたためでした。大和守が大島城に入った詳細な時期は不明ですが、当時の他の史料からすれば、下伊那占領直後のことであつたようです。

日向大和守が大島城へ入つた時点で、大島城は大島氏の城ではなく、武田氏の城となりました。旧の城主に支配を任せるのではなく、武田氏直属の城としたのです。

この地に残る旧記によると、大島城を撰取された大島氏は北の城へ引き下がった、あるいは沼の城へ移つたともありますが、武田氏の下伊那占領時、おそらく大島氏は、常時、大島城で日常生活はしていません。つまりここには住んでいなかったと考えられますから、北の城云々はあてにはなりません。城代として大和守が大島城へ入つた当時、城は今の形とは大きく異なり、おそらくは今の本丸部分だけであつたものと

下伊那占領時、伊那郡の拠点の城は、秋山信友が守る高遠城と日向大和守が守る最前線の伊那大島城の二つの城でした。永禄5年(1562)以降、高遠城に信玄の子勝頼が入つたため、秋山信友は飯田城に移り、高遠・大島・飯田の三つの城が伊那郡の拠点となりました。飯田へ移つた秋山信友が、やがて信玄の命を受けて大島城を修築するのです。

大島城代の日向大和守は佐久郡日向の出身で、甲斐逸見筋の高根を本貫地とする武將で、信濃侵攻戦における軍事面を担当した老将で、天正10年(1582)の大島落城まで城代を務めました。下伊那攻略に向け、佐久の松原諏訪神社に戦勝祈願をしたのも大和守で、大島城代の時、阿島の安養寺毘沙門堂を修復したのも大和守です。

大島城代の日向大和守は佐久郡日向の出身で、甲斐逸見筋の高根を本貫地とする武將で、信濃侵攻戦における軍事面を担当した老将で、天正10年(1582)の大島落城まで城代を務めました。下伊那攻略に向け、佐久の松原諏訪神社に戦勝祈願をしたのも大和守で、大島城代の時、阿島の安養寺毘沙門堂を修復したのも大和守です。

# 豪雨も暑さも 吹き飛ばせ!! スポーツ

## 第4回全日本 ハイシニアソフト ボール長野県大会

7月18、19日に箕輪町番  
場ヶ原運動公園にて全日本ハ  
イシニアソフトボール長野県  
大会が行われた。参加者は65  
歳以上。結果は次の通り。

優勝 松川ハイシニア

なお、松川ハイシニアは11  
月7日～9日に大阪府で開催

される全日本大会に長野県代  
表として出場する。

## 松川町 ゲートボール連盟 夏季大会

7月23日に炎天下の中松川  
町ゲートボール連盟夏季大会  
が行われた。結果は次の通り。

優勝 さくら  
準優勝 こぶし  
3位 中の村

## 下伊那体協 マレットゴルフ 大会

7月31日清流苑マレット場  
にて男性95名、女性63名の計  
158名が参加して、松川町マレ  
ットゴルフ同好会主催で下伊那  
体協マレットゴルフ大会が開  
催された。結果は次の通り。

### 男性の部

優勝 椎原昌弘  
準優勝 鎌倉陽一  
3位 佐々木優

### 女性の部

優勝 佐々木登美子  
準優勝 佐々木多津子  
3位 伊東寿美子

平成21年度第1回スポー  
ツフェスティバルが7月10  
日(金)松川町民体育館ア  
リーナを会場に開かれ、ワ  
ンバウンドふらば～るバレー  
を楽しみました。

## 黄色のボールであっちへこっちへ

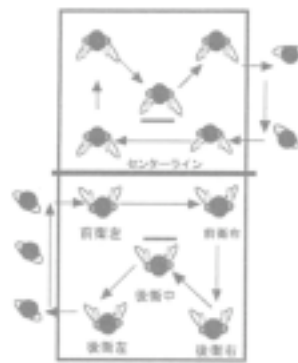
### 第1回スポーツフェスティバル ワンバウンドふらば～るバレー



さあ、慎重にサーブ

この競技の  
ボールは黄色の  
卵形で、バドミン  
トンコートを使い  
1チーム5名以  
上でローテーショ  
ンしながら進めま  
す。  
サーブはコー  
ト中央のサービ  
スラインからアン  
ダーハンドで打ち  
レシーブは床に着  
く前に打みますが  
1回で相手に返  
さず、必ず異なつ  
た人の手を経て2  
～3回で返しま  
す。サーブレシー  
ブ以外はワンバ  
ウンドさせてから  
ボールを打ち腰よ

り上ならどこを使っても良い  
とされています。  
卵形のボールは床にあたる  
場所によってバウンドの方向  
が変わるため予測のつかない  
方へ弾みレシーバーのリアクショ  
ンが笑いをさそっていました。  
ワンバウンドのためバレーボー  
ル経験者はつい手が出してしまう



ローテーション方法

うようで始めはとまどってい  
る人もいたようですが慣れて  
きてラリーが続くようになり  
各コートでの歓声がアリーナ  
に響いていました。



落とすのではなくバウンドを待っています

## 「カレーコンパ2009」開催

～スパシーな出会いを求めて～

この夏、ステキな仲間をみつけてみませんか？

- 日時 平成21年9月19日(土)
- 場所 松川青年の家  
(雨天：松川町中央公民館)
- 日程 10:00 開会  
10:30 オリエンテーリング  
(雨天：ワンバウンドふらば～るバレー)  
11:30 カレー作り  
13:00 食事、コンパ  
15:00 片付け  
15:30 解散
- 募集人員 北部地区在住で20歳以上の独身男女  
各10組20名(先着順)  
ペア(同姓2人1組)で申込
- 参加費 1ペア500円
- 主催 北部地区公民館 運営協議会  
(高森町、喬木村、豊丘村、大鹿村、松川町)

# なまかな

## 全国大会出場!! 飯田リトルリーグ



下澤 光佑くん(中1)  
太田 亜美さん(中1)  
矢澤 陸くん(中1)  
大島 文明くん(小5)  
香山兼一郎くん(小4)  
飯伊の硬式野球チーム「飯田リトルリーグ」が7月中に行われた信越大会で優勝し、8月22、23日に広島で行われる全国大会に出場します。現在、松川町では5人の選手が所属し、中学生3人が全国大会へ出場することになっ

ており、暑い中、日々練習に励んでいます。  
①ボジション  
②好きな(憧れの)選手③将来の夢④全国

7月6日(月)中央公民館大会議室において、平成21年度松川町公民館大島地区協議会公民館運営研究会が開かれました。まず大島地区協議会全体での今年度事業計画の発表、収支予算書の報告があり、その後大島地区協議会に所属する4つの地区公民館から今年度の活動計画の発表と運営上の感想、意見が発表されました。各地区館からは、「行事などの

大会に向けての目標(小学生の選手には)全国大会へ出場する選手へのメッセージについて聞いてみました。  
「下澤くん」  
①サード  
②ヤクルト・青木選手  
③プロ野球選手  
④ミスしても声を出してがんばりたい。  
「太田さん」  
①セカンド  
②西武・中島選手  
③野球に関係した仕事をした  
④優勝を目指したい  
「矢澤くん」  
①内野手(ショート・セカンド)  
②広島・東出選手  
③プロ野球選手

参加者が減少していて人集めに苦労している」「行事の通知を徹底して参加をしてもらえるように呼びかけを行っている」などの感想や、「育成会と連携した行事を増やして親とのパイプを作ることほできないか」「公民館以外の団体とのタイアップ行事を行えないか」などの意見が出されました。

## すぽっと 大島地区協議会公民館運営研究会

の豊かな自然や、ここ15年ほどで急激に変化してきたシカやサルなどの野生動物の分布、外来の帰化植物、町に存在している希少な植物、地層など多岐にわたる興味深い講演でした。

④全国制覇(大島くん)  
②シアトルマリナーズ・イチロー選手  
③メジャーリーガー  
④優勝してほしい  
「香山くん」  
②矢澤陸くん  
③ソフトボール選手  
④優勝するようがんばってほしい  
監督・コーチからは「元気を出して悔いの残らないようにベスト4や優勝を目指したい。松川の選手は内野手の要でがんばってほしい。」と言葉がありました。全力を尽くし、全国大会での活躍を期待したいです。

また、また硬式野球をする少年少女が少なく、小さい頃から硬式野球に慣れ親しんでほしいので興味のある方はぜひ、飯田リトルリーグへ。  
また、前飯田市美術博物館自然担当専門研究員の木下進氏を講師として、「松川町の素晴らしい自然環境 名もない宝物を垣間見る」と題した講演が行われました。松川町

# こぼれ詩

楽しかった音楽かい  
中央小2年 宮下きぬ子  
金曜日に、音楽会がありました。  
ステージにのぼったときに、すごくきんちようしました。でも、だんだんなれてきて、楽しくなってきました。  
「山のポルカ」は、きれいなこえでうたえてよかったです。「森のくまさん」も、楽しくできてよかったです。  
そして、さいごに6年生が、「つるぎのまい」をやりました。すごくかっこよかったです。

楽しい音楽かいでよかったです。  
音楽会  
中央小2年 いたうしよう太  
音楽会では、1ばんさいごの6年生がひいたのが、体いくかんに広がっていたので、ぼくはびつくりしました。すごい音なのでほかの学年もすごいなと思っていたでしょう。だからぼくは6年生になったらやりたいです。  
ぼくたちのえんそうも、うたもまちがえずに、きれいにしようずにできてよかったです。思います。  
これからもがんばって音楽会をできるようにしたいです。

# 俳句

うすもの 木下杉代

台風や離りし子等に声もらう

墓洗うテニアン島の文字悲し

ざわめきを闇に残して花火果つ

うすものの僧にしたがい合掌す

うすものや母逝きし年数へ見る

# 短歌

「友を思ふ」

弥久司 北原愛子

15年短歌俳句と学びしに  
偲草とは余りに悲しき

くる度に我れをばげまし君なれど  
先にゆくとは無常の現世

白きバラ散りしき後も香は残り  
無別の別れ永久に忘れじ

君の香を大気の中に感じて  
もう届かない星空の果て

深妙寺雨にうたれて紫陽花の色  
鮮やかにむらさき濃ゆく





# ●フェスタぎおん 7/4



## 視点

今年も町に初夏を告げる「祇園まつり」が上片桐、新井で開催された。熱気あふれる会場をカメラで追ってみた!!



# ●あらいの祇園祭 7/18



## 草

お盆が近づくと、家族から昔の話聞く機会が増えます。終戦記念日、テレビ中継の甲子園のサイレンを聞くたびに私は自分のルーツに思いを馳せます。私の父母ともに戦後の生まれです。戦時中、父方の祖父は2度徴兵され母方の祖父は大陸で捕虜になり終戦後もすぐには帰国出来なかつたそうです。もしも彼らが帰還しなかつたら父母も生まれず私の存在もなかつた...普段はやりたい放題生きている私ですが、終戦記念日と大晦日の日ぐらいは珍しく神妙な気持ちになるのです。親族の中には先の戦争で出征し若くして亡くなった方々もいらつしゃいます。「亡くなった人が『生きたい』と願った今を私達は生きている...誰かから聞いた言葉です。生活に追われる日々ですが、心に刻みたいものです。「もう昔のこと」なんて言わないで!戦争のことは、人それぞれ政治や宗教に関する考え方が絡んでくるので難しい話題ですが、あの戦争で亡くなった人達のことを忘れずにいたいです。(三島真理子)

公民館報  
「まつかわ」  
第 550 号  
平成21年8月15日  
発行所 松川町公民館  
責任者 塩澤三佳  
編集人 公民館編集部  
Tel 36-2622  
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp  
飯田市上郷黒田121  
印刷所 龍共印刷(株)